

研究ノート

外国人留学生に向けた入学前教育で留意すべき点は何か －2024年度早期合格者を対象に実施した入学前教育を手掛かりとして－

下岡 邦子

キーワード：外国人留学生、入学前教育、作文教材、高等学校・日本語教育機関との連携

1. はじめに

高大接続改革が進む現在、大学における入学前教育は一定の広がりを見せている^[注1]。その一方で、入学前教育の主たる目的が「高等学校レベルの学力の補填」とされ、多様化する学生に対して有効に機能していないという指摘もある^[注2]。また、現在実施されている入学前教育の多くが日本人学生を対象として設定されていることから、日本語を母語としない外国人留学生にとっては取り組みにくいものとなっている場合も少なくない。

以上のような現状を踏まえ、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コース（以下、「GC 学部日本語コース」という。）では、外国人留学生を対象とした入学前教育として作文教材を用いた教育方法を開発し、2024年度早期合格者を対象に実施した^[注3]。本稿は、GC 学部日本語コースが実施した入学前教育の流れや教材内容を説明し、外国人留学生に向けた入学前教育でどのような点に留意すべきかを考察するものである。

2. GC 学部日本語コースの入学前教育について

2.1. 実施の流れ

GC 学部日本語コースの入学前教育は早期合格者を対象に実施している。早期合格者は「年内合格者」とも呼ばれるが、GC 学部日本語コースの場合、10月に実施される入学試験を受験し合格した者（以下、「10月入試合格者」という。）、あるいは12月に実施される入学試験を受験し合格した者（以下、「12月入試合格者」という。）がそれに該当する。このうち、10月入試合格者に対して実施した入学前教育の流れを示すと表1のようになる。

10月入試合格者の場合、受験者が受験結果の通知を受け取るのが11月初旬となるため、教材の送付は11月中旬を目途に行った。そして、課題（作文）の「A 作成」「B 提出」「C 添削」「D 返却」という作業をそれぞれ3回行い、最終課題である課題③の返却は2月中旬を目途に完了させた。この四つの作業のうち、A と B は早期合格者が行うもので、C と D は入学前教育の担当教員が行うものである。

一方、12月入試合格者の場合は、受験者が受験結果の通知を受け取るのが12月中旬となり、10月入試合格者よりも入学前教育の開始時期がおおよそ1ヵ月あとになる。そのため、12月入試合格者に対しては教材の送付を12月下旬までに完了させ、提出課題は二つ（課題

②と課題③)とした^[注4]。

入学前教育の教材は、早期合格者に直接送付するのではなく、早期合格者が在籍する高等学校・日本語教育機関に送付した。これは、外国人留学生の多くが入学前教育に対する理解が十分ではないことを考慮してのことである。よって、教材を送付する際には、高等学校・日本語教育機関に宛てた案内文書も同封し、担当の先生に対して、当該学生（早期合格者）に入学前教育の意義や取り組み方についてご指導いただきたい旨の依頼を行った^[注5]。また、教材の送付は郵送を基本としたが、高等学校・日本語教育機関との日程調整が進められた場合には、GC 学部日本語コースの教員が高等学校・日本語教育機関を訪れ、担当の先生と面談し、その際に教材を手渡しして、GC 学部日本語コースの入学前教育の意図や内容等についての説明を行った。

入学前教育の課題（作文）の提出については、早期合格者が入学前教育教材送付時に同封されている返信用封筒を使用して返送する、という方法を採用した。そして、提出された課題（作文）については、入学前教育の担当教員が添削を行い、早期合格者へ返却した。この返却についても、高等学校・日本語教育機関を介している。つまり、早期合格者は、自身が在籍する高等学校・日本語教育機関の先生から添削済みの課題（作文）を受け取るのだ。このような手順を踏むことには、次のような狙いがある。

- ① 早期合格者が入学前教育の課題（作文）が返却されたことを認識し、添削内容を確認する機会を確保する。
- ② 添削内容について、担当の先生からも早期合格者へアドバイスをを行い、それを次の課題（作文）に活かす。

①については、添削済みの課題（作文）を返却する際に、高等学校・日本語教育機関に宛てた案内文書を同封し、その文書において、返却課題を当該学生（早期合格者）へ手渡ししていただきたい旨の依頼を行った。このように担当の先生から早期合格者へ直接添削済みの

表 1 入学前教育の実施の流れ
(10 月入試合格者の場合)

| | |
|------|--|
| 11 月 | 教材の送付 |
| | ↓ 課題①の ^A 作成・ ^B 提出 ↓ |
| 12 月 | 課題①の ^C 添削・ ^D 返却 |
| | ↓ 課題①の添削内容の確認 課題②の ^A 作成・ ^B 提出 ↓ |
| 1 月 | 課題②の ^C 添削・ ^D 返却 |
| | ↓ 課題②の添削内容の確認 課題③の ^A 作成・ ^B 提出 ↓ |
| 2 月 | 課題③の ^C 添削・ ^D 返却 |
| | ↓ 課題③の添削内容の確認 |

→ 12 月入試合格者に対する
入学前教育は 12 月下旬から実施

課題（作文）を渡してもらうことで、早期合格者は、少なくとも「課題が返却された」という事実を認識することができる。もし仮に、早期合格者に添削済みの課題（作文）を直接返却した場合、自宅に届く多くの郵便物の中に埋もれてしまい、早期合格者が「課題が返却された」という事実が気が付かないまま入学前教育が終了する、という事態も想定される。このような事態を回避するためにも、高等学校・日本語教育機関の先生から早期合格者へ手渡ししてもらうという手順は有効であると考ええる。

また、返却時に同封する高等学校・日本語教育機関宛の案内文書では以下のような文言も記している。

添削済みの作文には添削者が作成した評価用紙も添付しております。先生から●●さんに添削済みの作文をお渡しになる際、添付されている評価用紙の内容もよく確認するよう一言お口添えいただけますと幸いです。

（GC 学部日本語コース「入学前教育課題（作文）の返却についてのお願い」より一部抜粋）

上記の文言では、高等学校・日本語教育機関の先生に対して、添削内容の確認やそれに対する早期合格者への指導を依頼する内容は含まれていない。だが、多くの場合、早期合格者に返却する前に先生自身が添削内容に目を通し、さらには返却時に早期合格者に対して何らかのアドバイスをを行ったことが、その後の高等学校・日本語教育機関とのやり取りでわかっている。したがって、添削済みの課題を返却する際に高等学校・日本語教育機関を介すること、②のような事態が起きることも十分に期待できる。

なお、高等学校・日本語教育機関の訪問の時期によっては、GC 学部日本語コースの教員が当該機関を訪問した際に、添削済みの課題（作文）を持参して、担当の先生に早期合格者への返却を依頼するということがあった。

2.2. 作文教材の内容

GC 学部日本語コースが入学前教育教材（作文教材）として早期合格者へ送付したのは次の5点である。

- (1) 入学前教育の内容について
- (2) 作文を作成するときの注意点
- (3) 作文の書き方（A3 サイズ）
- (4) 課題用紙①、課題用紙②、課題用紙③（各1枚、すべて A3 サイズ）
- (5) 補助教材

(1) では GC 学部日本語コースの入学前教育の目的や課題の作成・提出のスケジュール、課題作成時の注意点を記した。このうち、課題作成時の注意点として示したのは、「課題用紙の提出は同封の返信用封筒を用いて GC 学部日本語コースへ返送すること」と「次の課

題（課題②または課題③）は、前の課題（課題①または課題②）の返却があってから取り組むこと」といった課題の提出方法や、作成スケジュールに関する注意点である。特に、作成スケジュールに関する注意点では「添削者のコメントやアドバイスを参考にしながら次の課題に取り組むこと」の重要性を説明し、そのような取り組み方で課題作成を進めるよう明記した。

一方、(2)でも課題（作文）を作成するときの注意点を説明しているが、こちらでは「手書きで書くこと」「ノートなどの他の紙で下書きを作成すること」「ボールペンを使用すること」等、課題（作文）を作成する際のより具体的な注意点を記している（稿末資料1）。また、剽窃等に関する注意もここに記した。

さらに(2)では、「評価のポイント」として、課題返却時に添付する評価表を示した。そして、「評価表の「できた」すべてに「✓」が入ることが目標」だと説明した。このように、事前に課題作成者（早期合格者）へ評価のポイントを明示することで、早期合格者は闇雲に課題（作文）を作成するのではなく、一定の目標をもって主体的に課題（作文）に取り組めるのではないかと考える。さらに、3回（あるいは2回）の課題（作文）において、自身に対する評価がどのように変化しているのか（あるいは変化していないのか）を可視化することもでき、早期合格者が自身の作文を振り返る際の一つの判断材料になり得るともいえる。

(3)では、課題用紙の使い方（書き方）について、実際の課題用紙（A3サイズ）を用いて説明した（稿末資料2-1、2-2）。GC学部日本語コースの入学前教育では、課題は手書きで作成することを義務付けている。これは、対象となる外国人留学生の日本語表記能力を確認するためである。特に、漢字表記については、非漢字圏出身の外国人留学生だけでなく、漢字圏出身の外国人留学生にも一定の課題が認められる。よって、新たにGC学部日本語コースに入学する予定の早期合格者が日本語表記に関してどのような課題を抱えているかを確認するために、作文はすべて手書きとした。また、作文の分量についても、課題用紙に太線を引いて「この行より多く書いてください」と指示することで、課題作成者（早期合格者）が「原稿用紙のどこまで書けばいいのか」を明確に認識できるようにした。

(4)の課題用紙は、課題①、課題②、課題③の3種類を用意した。そして、各課題では「200字作文」（原稿用紙A）と「400字作文」（原稿用紙B）の二つの作文を課し、それぞれの作文について、8割以上書くこととした。今回、このように異なる長さの作文を提示したのは、課題作成者（早期合格者）が、指定された文字数に合わせて、どのように説明の仕方や内容を変えてくるのか（または、変えてこないのか）を確認するためである。なお、「200字作文」と「400字作文」は、異なるテーマを設定した（作文のテーマについては、次節で改めて取り上げる）。

課題用紙での各項目の配置は全課題統一とし、左上に作文のテーマとその説明、左下に「原稿用紙A」、右側に「原稿用紙B」という配置にした（稿末資料2-1、2-2を参照のこと）。

(5) の補助教材とは、GC 学部日本語コースが毎年 9 月末に発行している「日本語コースパンフレット」のことである。今回の入学前教育では、課題②が資料読解を踏まえた作文となっており、その資料として日本語コースパンフレットを 1 部送付した。

以上が、GC 学部日本語コースが早期合格者へ送付した入学前教育教材（作文教材）である。これらの入学前教育教材は、早期合格者が受験結果の通知を受け取った後に一括で送付した。その際、早期合格者が入学前教育教材の保管を円滑にできるよう、(1)～(5) の教材と課題提出時に使用する返信用封筒を市販のファイル^[注6]にすべて収納し、「教材セット」として早期合格者が在籍する高等学校・日本語教育機関に郵送した。

2.3. 作文のテーマ

先述のとおり、GC 学部日本語コースの入学前教育では、各課題で二つの作文テーマを提示している（表 2）。ここからは、各課題で提示した作文テーマの意図について述べていく。

表 2 作文の文字数とテーマ

| 課題 | 文字数 | テーマ |
|----|-------|---------------------------------|
| ① | 200 字 | 私の平日の 1 日 |
| | 400 字 | 担任の先生の自分に対する印象 |
| ② | 200 字 | 私が参加してみたい日本語コースの課外活動 |
| | 400 字 | 一緒にグループワークをしてみたい先輩 |
| ③ | 200 字 | 将来の夢 |
| | 400 字 | 将来の夢を叶えるために、神戸学院大学で何をしなければならないか |

1) 課題①

課題①のテーマは、早期合格者に自身の「現在」について説明させることを目的としている。まず「200 字作文」では、現在の自身の生活（平日の 1 日）について、朝起きてから夜寝るまでのことを順序立てて説明（描写）するよう求めた。ここで重要なのは、「平日の 1 日」という点である。何か特別なことが起きた日ではなく、日々のありふれた 1 日を早期合格者がどのように描写するのかという、早期合格者の「説明力・描写力」を確認することが目的である。また、「400 字作文」は、「現在」の自身に対する「他者評価」を自身の言葉で説明するというテーマである。この場合の「他者」とは、早期合格者が在籍する高等学校・日本語教育機関の担任の先生のことで、課題用紙のテーマ説明では、「担任の先生に自分の印象をインタビューして、その内容を自分の言葉で説明してください」と指示した。このテーマでは、早期合格者が自身に対する他者（担任の先生）の評価を知り、それを理解して自身の言葉で再生産する、という過程を大切にしている。このことによって、早期合格者が

「現在の自分」を客観的に見つめ、自己に対する肯定的な感情、あるいは大学入学に向けた改善点や修正点が見いだせればいい、という期待を込めてのテーマとなっている。

また、課題①のテーマは、GC 学部日本語コースの履修必修科目である「日本語基礎演習Ⅰ」（1 年次前期開講）での「母校の先生への近況報告」という活動につながるよう意識した。つまり、課題①で早期合格者が大学入学前の「現在」を説明するという活動が、大学入学後、大学での「現在」を説明するという活動につながる、ということである。下岡（2024）でも述べた通り、入学前教育では、大学入学者がいかに円滑に大学での学修を開始できるかが論点の一つとして議論される。そして、その際に指摘されるのが「大学入学前と大学入学後の学びの関連」という点である。GC 学部日本語コースの入学前教育では、この「学びの関連」という点を重視し、課題①では、1 年次生の履修必修科目で行う実際の活動へつながるようテーマ設定を行った。

2) 課題②

課題②は、「大学入学後」という早期合格者の「近い未来」に関するテーマである。一つは、GC 学部日本語コースが実施している課外活動を紹介し、その中から自身が参加してみたい課外活動の一つ選ばせ、その理由を説明するというテーマ（200 字作文）で、もう一つは、GC 学部日本語コースに在籍する 1 年次生の中から「一緒にグループワークをしてみたい先輩」を二人選び、なぜそれらの先輩とグループワークをしたいと考えたのかを説明するというテーマ（400 字作文）である。これらの作文は、作文教材に同封した日本語コースパンフレットを参照して作成するよう指示した。つまり、簡単な資料読解を踏まえての作文となる。

課題②では、早期合格者が、自身が大学に入学した後に、どのような活動に参加できるのか、さらには、GC 学部日本語コースにはどのような学生が在籍しているのかを知り、「大学での学修や生活」を具体的にイメージすることを期待してテーマを設定した。したがって、作文の中で、早期合格者がどの課外活動を選んだか、または、どの 1 年次生を選んだかは、実のところあまり重要ではない。大切なことは、日本語コースパンフレットに目を通して、GC 学部日本語コースではどのような課外活動を行っているのか、または、どのような学生が在籍しているのかを「知る」ことにある。

外国人留学生の場合、日本の大学での学修に対して具体的なイメージを持たないまま入学するという者も少なくない。もちろん、大学入学後に少しずつ大学での学修や生活に慣れていくという方法もある（実際にはそちらが大半かもしれない）。しかし、大学入学前に、大学での学修や生活についてイメージできる機会を提供することは、「高大接続の充実」という点において重要なことだといえる。特に、早期合格者のように、大学入学までに一定の時間がある学生に対しては、その時間を有効活用して、積極的に「大学を知る」機会を提供し、大学での学修や生活について具体的にイメージしてもらうことは、彼らが円滑に大学生

活をスタートさせることにプラスの影響を与えるのではないかと考える。

3) 課題③

課題③も「未来」を問うテーマであるが、こちらは「遠い未来」、具体的には、「大学卒業後」を考えるテーマである。まず「200字作文」では、「将来の夢」、つまり「大学卒業後に何がしたいのか」を説明するよう指示した。そして「400字作文」では、「将来の夢」を叶えるために、神戸学院大学で何をしなければならないかを説明するよう指示した。また、説明する際は、年次ごとに「具体的な方法」を示して、「大学4年間で何をどの順番で行うのか」ということを説明するよう求めた。このテーマ設定の目的は、早期合格者が、自身の「将来の夢」を達成するための「具体的な方法」を考え、それを明確に示せるかを確認することである。もちろん、早期合格者の中には、4年後の未来について特に何も考えていないという者も一定数いるだろう。また、大学での学修について十分に理解しないまま課題（作文）に取り組む者がいることも想定される。しかし、そうであっても、「自分の将来の夢は何かを考え、それを達成するために、それぞれの年次に具体的に何をしなければならないかを説明する」ことは、大学での学修を具体的にイメージすることにつながり、決して無駄なことではないと考える。

また、課題③では、「200字作文」と「400字作文」の関連性に対する早期合格者の理解度についても確認したいと考えた。つまり、「「200字作文」と「400字作文」は別々の内容ではなく、一つの大きなテーマとしてつながっている」ということを早期合格者が理解し、それを踏まえて課題（作文）に取り組んでいるか、という点を確認するのである。近年、大学入学者の学力低下について様々な議論が行われているが、その際に「課題内容や問題文が正確に理解できない学生」に関する話題もしばしば取り上げられている^[注7]。このような現状を踏まえ、GC学部日本語コースでも、「早期合格者が、課題作成に関する指示内容をきちんと理解し、二つのテーマの関連性を読み取って、それを作文に反映させているか」という点を確認したいと考え、今回のようなテーマを設定した。

以上、GC学部日本語コースの入学前教育について、「実施の流れ」「作文教材の内容」「作文のテーマ」の順で説明した。今回、GC学部日本語コースで開発した入学前教育教材は、対象が外国人留学生であることを考慮した内容となっている。つまり、日本語能力の差や、漢字圏・非漢字圏の違い等に左右されず、多くの外国人留学生が主体的に取り組めるよう、課題は「作文」のみとした。そして、作文の作成を通じて、早期合格者が、現在の自分を確認し、未来の自分を想像して、大学での学修や生活についてより具体的にイメージできる機会となるようにした。

また、GC学部日本語コースの入学前教育では、作文の添削にも重点を置いた。特に、添削の際は、添削者である入学前教育担当教員（GC学部日本語コース教員）が手書きでコメ

ントを書くようにした。これは、添削者がコメントすることで、早期合格者の「大学入学前」や「大学入学後」に対する考察が深まることを期待しての方策である。さらに、早期合格者がイメージする「大学入学後」に対して添削者が共感したりアドバイスを示したりすることは、早期合格者の「未来」に対する肯定感につながり、大学での学修にプラスに働くのではないかという期待も込めている。また、大学入学前に、自身が在籍する予定の学部教員と複数回やり取りを交わすことで、早期合格者が大学での学修や生活に対して抱く不安や悩みを少しでも軽減できるのではないかとすることも考慮している。

3. 2024 年度入学前教育の結果

GC 学部日本語コースが 2024 年度早期合格者を対象に実施した入学前教育の結果は、以下の通りである（表 3）。

表 3 2024 年度入学前教育実施結果

| | 人数 | 出身 | 課題総数 ^[注8] | 提出率 |
|-----------|-----|---------|----------------------|-------|
| 10 月入試合格者 | 6 名 | 中国、ベトナム | 18 | 94.4% |
| 12 月入試合格者 | 8 名 | 中国、インド | 16 | 93.8% |

今回実施した入学前教育では、10 月入試合格者、12 月入試合格者とも課題の提出率は約 94% だった。これは、ほぼすべての課題（作文）が提出されたことを意味する^[注9]。今回、このように提出率が高くなった理由の一つとして、課題の送付・返却の際に、高等学校・日本語教育機関を介したことがあると考えられる。つまり、大学教員と早期合格者だけのやり取りであれば、早期合格者の課題に対する意識が高まらない可能性も考えられるが、課題の送付・返却、さらには大学への問い合わせに至るまで、高等学校・日本語教育機関（具体的には、早期合格者の担当の先生）を介することで、早期合格者の課題に対する意識が少なからず向上したのではないかと考えられる^[注10]。

4. 成果と課題

また、今回の入学前教育の実施を経て、いくつかの成果と課題が見えてきた。

まず、2024 年度早期合格者に対して実施した入学前教育では、対象者（早期合格者）全員が課題（作文）をほぼすべて提出した。従来の入学前教育では、「対象者の取り組み姿勢が「受動的」になってしまい、未提出の場合も少なくない」という課題が指摘されることが多いが、GC 学部日本語コースの入学前教育では、対象者（早期合格者）全員が入学前教育の課題（作文）に取り組み、提出した。これは、早期合格者が GC 学部日本語コースの入学前教育の目的を理解し、「提出しなければならない」という意識を持ったことの現れでは

ないかと推察される。

このような早期合格者の入学前教育に対する理解や意識には、早期合格者が在籍する高等学校・日本語教育機関の先生の助言が大きく影響していると考えられる。先述の通り、今回の入学前教育では、「教材送付」「課題返却」「大学への問い合わせ」はすべて高等学校・日本語教育機関を介している。つまり、早期合格者は、入学前教育の教材や返却された課題（作文）は、すべて高等学校・日本語教育機関の先生から受け取り、もし入学前教育に関して何か質問がある場合は、高等学校・日本語教育機関の先生を通じて大学へ問い合わせる、ということ徹底した。その結果、入学前教育に対する高等学校・日本語教育機関の先生の関与度が強くなり、対象者（早期合格者）への働きかけも強まったのではないかと考えられる。

従来から指摘されているように、入学前教育をより充実したものにするためには、高等学校（外国人留学生の場合は「高等学校・日本語教育機関」となる）と連携を図ることが重要である^[註11]。したがって、大学は、高等学校・日本語教育機関との連携を図る第一歩として、入学前教育を実施する意図等を丁寧に説明し、高等学校・日本語教育機関の理解を得る必要があるだろう。2024年度の入学前教育では、GC 学部日本語コースの教員が高等学校・日本語教育機関を訪問し、その際に対面で入学前教育について説明する機会も多くあった。今回、高等学校・日本語教育機関との連携を重視したコース独自の入学前教育を実施したことによって、「高大連携」の重要性が改めて確認できたことは、意義のあることだといえる。

一方で、課題もある。まず、今回実施した入学前教育が、早期合格者の大学での学修や生活にどれほど寄与したのかが検証できていない。今回の入学前教育では、早期合格者は決められた通りに課題（作文）を作成し、提出した。しかし、そのような取り組みが、大学入学後の学修や生活にどのようにプラスに働いたのか（あるいは、働かなかったのか）、その点はまだ明らかにできていない。また、入学者の中には入学前教育を受けていない学生もいるわけだが、「入学前教育を受けたか否か」の違いが、入学者の大学での学修に影響を与えているのか（あるいは、与えていないのか）という点も検証が必要である。2024年度早期合格者に対して実施した入学前教育では、「入学前教育を実施する」というところで終わってしまったが、今後は、大学入学後の意識や姿勢に対する影響なども視野に入れて、入学前教育の結果を検証・分析していく必要があると考える。

5. おわりに

ここまで、GC 学部日本語コースの入学前教育について述べてきた。

今回は、GC 学部日本語コースが実施した入学前教育について、実施の流れや教材の内容を説明するに止まり、早期合格者が提出した課題（作文）の内容分析はできていない。また、前章でも述べたように、GC 学部日本語コースが実施した入学前教育が、早期合格者の大学入学後の意識や姿勢にどのような影響を与えたのか（あるいは、与えなかったのか）についても検証できていない。これらの分析・検証も含め、今後、GC 学部日本語コースの入

学前教育教材を修正・改善していくとともに、「外国人留学生に特化した入学前教育には何が必要か」についての考察をさらに進めていきたいと考えている。

[注]

1. 山本他（2024）では、2022年4月～5月に全国の4年制大学500校（国立81校、公立96校、私立323校）に対して入学前教育の実施状況に関する質問紙調査を実施したこと、そして、質問紙の返送があった226校のうち191校（84.5%）が「入学前教育を実施している」と回答したことが記されている。
2. 山本他（2024）p.188 参照。
3. 外国人留学生に特化した入学前教育の意義については、下岡（2024）を参照されたい。
4. 12月入試合格者に送付した課題②と課題③は、10月入試合格者に送付した課題②、課題③と同様の内容である。
5. 教材送付時には、高等学校・日本語教育機関の先生に対して「課題（作文）作成に関する指導はしていただかなくてよい」ということも併せてお伝えした。
6. 今回の入学前教育では、コクヨの「キャンパス 復習がしやすいプリントファイル」を使用した。
7. 例えば、新井（2018）では「全国読解力調査」での結果を示しながら、問題文や指示文が正確に理解できない生徒が一定数存在することが示されている。
8. 課題総数とは、こちらから早期合格者に対して課した課題の総数のことである。よって、10月入試合格者の場合は「課題①、課題②、課題③の総数」となり、12月入試合格者の場合は「課題②、課題③の総数」となる。
9. 今回の入学前教育で未提出だった課題（作文）は2本（10月入試合格者1名、12月入試合格者1名）だった。
10. 実際、日本語教育機関の先生から GC 学部日本語コースの教員へ「学生がまだ入学前教育の課題を出していないのですが、今から出しても受け取ってもらえますか」という問い合わせがあった。このことから、日本語教育機関の先生が当該学生（早期合格者）に対して、課題を提出するよう働きかけてくださっていたことがわかる。
11. 文部科学省「「高大接続改革」に係る質問と回答（FAQ）3-5-1 入学前教育の充実を図るために、どのような方策がとられるのでしょうか」参照。

[参考文献]

- 新井紀子（2018）『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社
- 市原乃奈（2021）「留学生の「日本語」大学入学前教育にはどのような媒体が有効か」『拓殖大学日本語教育研究』第6号、pp.23-56.
- 下岡邦子（2024）「外国人留学生を対象とした入学前教育の検討と教材開発」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第9号、pp.93-101.
- 山本以和子・花堂奈緒子・林寛子・當山明華・陣内未来（2024）「高大接続改革に係る入学前教育の実施状況と課題」『大学入試研究ジャーナル』第34号、pp.182-189.
- 文部科学省「「高大接続改革」に係る質問と回答（FAQ）3-5-1 入学前教育の充実を図るために、どのような方策がとられるのでしょうか」https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1402211.htm（2024年9月29日閲覧）

稿末資料 1 入学前教育教材 (2) 作文を作成するときの注意点

作文を作成するときの注意点

● 評価のポイント

作文を作成するときは、次の表の「評価のポイント①～⑧」に気をつけてください。添削者（日本語コースの先生）は、「評価のポイント①～⑧」に沿って作文をチェックします。

| 項 目 | 評価のポイント | 評 価 | | |
|-----|--------------------------|-----|------|--------|
| | | できた | あと少し | できなかった |
| 表 記 | ① 漢字を適切に使用している | | | |
| 文 体 | ② 指定された文体だけ使用している | | | |
| 構 成 | ③ 二つ以上の段落で作文を構成している | | | |
| 内 容 | ④ 作文の内容がテーマに合っている | | | |
| | ⑤ 「意見」と「理由」を書いている | | | |
| | ⑥ 数字や具体的な例を入れて、詳しく説明している | | | |
| その他 | ⑦ 原稿用紙を正しく使用している | | | |
| | ⑧ 指定された行よりも多く書いている | | | |

添削者は提出された作文を読んで
ここに「✓」を入れます
※すべて「できた」に「✓」が入るのが目標です

● 注意点

作文を作成するときは、次の（１）～（６）の注意点を必ず守ってください。

- （１）「作文の書き方」の指示にしたがって作文に取り組んでください。
- （２）作文は必ず手書きで書いてください。そして、丁寧に書いてください。
- （３）課題用紙は清書用です。必ず、ノートなどの他の紙で下書きを作成してください。
- （４）課題用紙には黒のボールペンで書いてください。間違えないように気をつけてください。
- （５）もし間違えてしまった場合は、修正テープや修正ペンを使って、間違えた部分をきれいに消してください。
- （６）他の人が書いた文章を写すことは泥棒と同じですから、絶対にやめてください。
インターネットにある文章のコピペやチャット GPT の使用もやめてください。
（このようなことをして作文を作成しても、まったく意味がありません。）

提出期限：1月15日（月）

作文の提出期限を
よく確認してください。

名前:

名前はカタカナ表記でフルネームで書いてください。

(2) 【原稿用紙B】もし日本語コースの先輩と一緒にグループワークをするなら、誰と一緒にしたいですか。日本語コースパンフレットの見開きページに載っている在校生（18名）の中から二人選んで、なぜその先輩と一緒にグループワークをしたいのか、その理由を詳しく説明してください。

※選んだ理由を説明するときは、一人ずつ説明してください。

原稿用紙は横書きで書きましょう！

原稿用紙A：私が参加してみたい日本語コースの課外活動

私が参加してみたい日本語コースの . . .

段落のはじめは
1マス空けてください。

文字は手書きで
丁寧に書いてください。

この課題用紙は清書用です。
必ず、ノートなどの別の紙で下書きを作成してください。

ボールペンで清書する。「ですます体」で書く。

ボールペンで清書する。「ですます体」で書く。

稿末資料 2-2 入学前教育教材 ((3) 作文の書き方 [右頁])

【作文の書き方】

原稿用紙[B]: 一緒にグループワークをしてみたい先輩

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 私 | が | 一 | 緒 | に | グ | ル | ー | ブ | ワ | ー | ク | を | し | て | み | ・ | ・ | ・ |
| <p>原稿用紙[A]と原稿用紙[B]は書くテーマが少し違います。 左上の課題指示の文章をよく読んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>作文はこの行より 多く書いてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>作文の文体はここで指定しています。 きちんと確認してください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ボールペンで消書する。「ですます体」で書く。